

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名: 特定非営利活動法人日本ペルー共生協会

1 事業の趣旨・目的

【町田日本語教室】

スペイン語でしか理解できないスペイン語圏出身在留者及び十分ではないスペイン語（母語）、十分ではない日本語といったあやふやな環境の中で困っている日本育ちの子どもたちが地域で生活している。保護者は日本での就学経験がないまま、不正確な子どもからの情報を鵜呑みにして一方的に学校に対する不満を持ち始めている。このため、彼らのアイデンティティを守りつつ、個々人に適切な（今回は教育を中心とした）情報提供を行い、日本社会で共生できるように支援する必要がある。対象を特に地域での日本語教育ではレベル、学習方法に不満があり、もう少し上のレベルで日本語学習を希望して、日本語能力試験受験を目指している人に照準を合わせる。

【親子日本語教室】

スペイン語でしか理解できないスペイン語圏出身の主として「保護者」、日本語スペイン語双方の言語が十分でない「子ども」に関する支援を目的としている。彼らのアイデンティティを守りつつ個々人に適切な支援を行い日本および出身国双方の社会に貢献できる人材の育成を目指す。特に子どもは学校生活に必要なスキルを身に着けること、親は子どもと共に学ぶ姿勢を子どもの前で見せることが大切であると考えている。双方がともに学ぶことによる相乗効果を期待している。また指導のアシスタントとしては養成講座で学習したスペイン語圏出身者によることとしコミュニティ全体に対するエンパワーメントとして考える。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
6月7日	パラシオス、高橋、川合、山城、中西、村松、中沢、奥谷、	日本語教室、親子日本語教室との調整、双方の教室の特色	町田の日本語教室の指導者の確認、大和の日本語教室の講座スタイル

7月25日	パラシオス、高橋、川合、山城、中西、村松、中沢、奥谷、	クラス別の確認 日本語試験情報の提供に関して 学生の進学相談	担当者が進学相談に応じる、 日本語能力支援の願書を代理で一括購入
親子日本語 振り返りの 会 2月7日	奥谷、永友、田辺、高橋、川合、山城、中西、パラシオス	大和親子日本語教室の反省、次年度に向けた提案	当初の受け入れレベルのチェックが必要 当初の受け入れは多少多くても可能ではないか レベル差のおるグループへの指導の見直し
町田日本語 振り返りの 会 2月13 日	宿谷、中沢、高橋、川合、井出、パラシオス	日本語能力試験対応のコースの今までの反省及び今後への展望	スペイン語圏だけにこだわったプラス面とマイナス面、終了後も継続希望者がいるためその対応策

【写真】



3 日本語教室の開催について 3-1

- ① 日本語教室の名称:【AJAPE 町田日本語教室】
- ② 開催場所:町田市 町田市民フォーラム 4階 ボランティアセンター及び学習室、
町田公民館、まちだことばランド
- ③ 学習目標:それぞれの級に合わせた日本語能力試験の対策講座(1級～4級ト日常会話
クラス)

④ 使用した教材・リソース:日本語能力試験完全マスターその他教員からのコピー、手作リプリント類

⑤ 受講者の募集方法:IPC(週刊スペイン語新聞全国紙に広告掲載、過去の問い合わせ者にチラシ郵送、ホームページ上のお知らせ、チラシ配布
広告紙面コピー添付⇒資料B

⑥ 受講者の総数

AJAPE 町田日本語教室 83 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数)

AJAPE 町田日本語教室(5クラス×2H×21日) 210 時間 (全 21 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

* 国籍:ペルー、ボリビア、アルゼンチン、パラグアイ、日本(帰化)などのスペイン語圏
(未記入者がいたため全員分の国別個人データはなし)

* 基本的に毎回5クラスの授業を組み教育相談等は授業の前後に行った

* 日本語教室開催時間はすべて18:30~20:30

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	6月27日 18:30 ~ 20:30	2 時間	69人	中南米:スペイン語	教授者6人 補助者2人	各クラス担当者が主として日本語能力試験過去問を使用しての授業
②	7月4日	同上	68	同上	教授者6人 補助者1人	同上
③	7月11日	同上	64	同上	教授者5人 補助者1人	同上
④	7月18日	同上	63	同上	教授者6人 補助者1人	同上
⑤	8月1日	同上	66	同上	教授者6人 補助者1人	同上
⑥	8月8日	同上	67	同上	教授者6人	同上
⑦	8月29日	同上	50	同上	教授者6人 補助者1人	同上

⑧	9月5日	同上	60	同上	教授者6人	同上
⑨	9月12日	同上	53	同上	教授者6人	同上
⑩	9月19日	同上	52	同上	教授者5人	同上
⑪	9月26日	同上	54	同上	教授者6人 補助者1人	同上
⑫	10月3日	同上	55	同上	教授者5人	同上
⑬	10月10日	同上	56	同上	教授者6人 補助者1人	同上
⑭	10月17日	同上	41	同上	教授者5人	同上
⑮	10月24日	同上	47	同上	教授者6人 補助者1人	同上
⑯	10月31日	同上	45	同上	教授者6人 補助者1人	同上
⑰	11月7日	同上	54	同上	教授者6人	同上
⑱	11月14日	同上	47	同上	教授者5人	同上
⑲	11月21日	同上	42	同上	教授者6人 補助者1人	同上
⑳	11月28日	同上	43	同上	教授者6人 補助者1人	同上
21	12月5日	同上	41	同上	教授者6人 補助者1人	同上

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

2級の授業



1級の授業



4級の授業



3級の授業



3 日本語教室の開催について 3-2

① 日本語教室の名称:【AJAPE 大和親子日本語教室】

② 開催場所: 大和市 富士見文化会館

③ 学習目標: 親と子が同時に参加する協働学習型の日本語教室である。保護者に対しては困難な用語場面においては母語であるスペイン語を使用して基本的な知識の伝達を行う。

①、日本の学校制度を母語（スペイン語）で説明

②、学校で行われている各種行事やお知らせ類に使用される日本語の学習

③、日常使用する日本語の学習

④、親子のコミュニケーション

子どもは学校で使用する日本語の学習言語の学習および日本語を使用して発表したり、友人とコミュニケーションをとることができるようにする。

①友人とのコミュニケーション

②アイデンティティーの涵養

③親子のコミュニケーション

④ 使用した教材・リソース： 講師手作りのプリント類

⑤ 受講者の募集方法:IPC(週刊スペイン語新聞全国紙に広告掲載、過去の問い合わせ者にチラシ郵送、ホームページ上のお知らせ、チラシ配布
広告紙面コピー添付⇒資料C

⑥ 受講者の総数： 親子 12組 18人

⑦ 開催時間数(回数)： 親 2時間X5日 子 2時間x5日 親子合同 1時間x 5日
計 25時間 (全 5 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
1	1月10日	5時間	親9人 子11人	アルゼンチン、ペルー		親：自己紹介・日本の学校 子：レベルチェック、自己紹介
2	1月17日	同上	親2人、 子5人	ペルー		親：学校生活(決まり、行事) 子：語彙(家にあるもの) 表現「あります・います」
3	1月24日	同上	親4人、 子7人	アルゼンチン、ペルー		親：学校の先生との会話 子：時間、様子を表す形容詞、「に」「で」、お話
4	1月31日	同上	親6人、 子8人	ペルー		親：子どもの勉強 子：時間・語彙(学校にあるもの)、しりとり

5	2月7日	同上	親6人、 子9人			親：進路・その他 子：方向を表す動詞、漢字、お りがみ
---	------	----	-------------	--	--	-----------------------------------

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)



親子合同の授業



親だけの授業



子どもの授業の最後「終わりの会」の様子

⑨ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿 AJAPE 大和親子日本語教室

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
米沢 るり子	ボリビア	12 年	1 回	バイリンガル授業補助
リディセ フローレス	メキシコ	5 年	1 回	バイリンガル授業補助
比嘉 スサナ	ペルー	15 年	2 回	バイリンガル授業補助
平田 スサナ	ペルー	15 年	3 回	バイリンガル授業補助
市川 ジョバンニ	ペルー	16 年	3 回	バイリンガル授業補助
福崎 パメラ	ペルー	17 年	2 回	バイリンガル授業補助
稲福 スーザン	ペルー	12 年	2 回	バイリンガル授業補助
大田 憲男	ブラジル	18 年	1 回	バイリンガル授業補助
吉田 ルミ	ペルー	16 年	2 回	バイリンガル授業補助
津嘉山 ドリス	ペルー	12 年	2 回	バイリンガル授業補助
小波津 瑞希	ペルー	18 年	2 回	バイリンガル授業補助

⑩ 支援者の名簿(⑦以外) AJAPE 町田日本語教室

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
平田 スサーナ		日本語能力試験 1 級	11 回	バイリンガル補助者
カルロス ロペス		日本語能力試験 2 級	3 回	バイリンガル補助者

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

町田日本語教室において日本語能力試験受験者は推定 70%以上、合格率も推定 50%以上と思われる。今まで試験のための勉強をしていなかったのが自己流であったが今回のコースで勉強のコツがわかったとの声も寄せられた。

② 学習者の習得状況:

町田日本語教室では毎回かなり宿題も出された。
出席率も思ったよりよく皆勤の人も 2 人いた。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果:

近年雇用主である企業も日本語能力試験の3級以上ということの限定をつけて採用する場合もあるそう。その条件を満たすためにも学習者はかなり真剣に日本語の学習に取り組んでいた。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等:

地域の夜間高校に通学している生徒も参加した。教育相談にも応じて最終的には大学進学も果たした。高校の先生、母親ともにとても驚き喜んでいた。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

- a. 現状 学生と社会人を同じコースで学習させるべきかどうか迷うこともある。
 学生は日本語力はかなりあるがその他の面で社会人とは(理解力
 読解力)力の差があるので学習のポイントが異なる場面もあった。
- b. 今後の課題: 自己申告で各コースに入ったが2カ月程度自分のレベルに合ったコースを見つけるために、迷ったり移動したりする人がいた。一日分の授業をやめても最初のプレースメントテストやコースの説明のための時間を考える必要があるようだ。
- c. 今後の活動予定, 展望:
 文化庁の予算、計画のために6月から12月までのコースとしたが年間を通じて安定したコースを準備してほしいという声が多く寄せられた。
 運営するとなると自己負担金もかなり増えるが検討の余地があるようである。

その他参考資料

以下に添付

受講生のニーズ調査から

①子どもの教育でこまっていること （ ニーズ調査から ）

- *子どもがいつも一人ぼっちでいること
- *子どもの漢字の勉強が遅れているのに教えられない。
- *子どもの宿題をみることができない。
- *子どもが日本語がわからない。教えられない。

②この親子教室で勉強したいこと

- *生活の言葉
- *もっと日本語で話ができるようになりたい・
- *漢字をもっと学びたい。
- *ひらがなと漢字
- *高校に進学するとき、奨学金などを受けるための方法を知りたい。
- *コミュニケーションの力を学びたい。
- *日本語の勉強をもっとしたい。

日本の生活の面では困っていることはないと答える受講生が 9 人中 3 人いたが、子どもの教育の面では、ほとんどの人が子どもを育てる点でも自分が日本語ができな
いことが問題と感じている。とくに宿題などを見てやれないことで大変困っている。

講 義 報 告 書

町田教室日本語研修

2009 年 12 月 18 日

使用教材	項目整理 2 級問題集 (凡人社) 完全マスター 2 級 日本語能力試験読解問題対策 (スリーエーネットワーク) 日本語能力試験に出る漢字 2 級 (国書刊行会) 「学ぼう! にほんご」中級 (専門教育出版) 日能試過去問 2006/2007/2008 年度 日本語能力試験出題基準の機能語リスト 2 級
実施内容	「学ぼう! にほんご」2 1 課・2 2 課 レベルチェックのため最初の 2 回使用 その後毎回 項目整理の文字 (終了後は語彙) 2 ページと文法 2 ページ終了 完全マスター中文編 1 問ずつ 終了 宿題 漢字 2 級 読みの部分のみ 1 ~ 2 1 回まで 夏休み 2006 年度日能試の読解・文法問題 1 0 月半ばから 日能試聴解問題 1 年分を 2 回に分けて実施 1 1 月末に 3 年分終了 1 1 月から 1 2 月 5 日までに 2007/2008 年度の読解・文法問題 2006/2007/2008 年度の文字・語彙問題を優先する 参考資料として皆さんに機能語リスト 2 級 を渡す
講師講評	目標として能力試験対策ということであった。 範囲は広く、非漢字圏の人たちにとってパスするのはそう簡単なことではない。 クラスの中の実力差が目立ち、また、年齢も中学生から少し年配の方まで広く、読解文の内容を考えても、教えるのに難しいクラスであった。受験することを目標に進めてきたが、必ずしも受験するわけではなく、受験しない人にとってはあまり役に立たなかったように思う。 また、スタート時にはいなかった高校生が、途中で入ったり、休んだり、また来たりと出入りが激しく、クラス全体を落ちつきのないものにしてしまった印象が強い。 皆さんは話すことや聞き取りはかなりできているが、読解には苦勞していた。まだ、日本語の少しまとまったものを読む経験が少ないということだと思う。週 2 時間ではあるが、講師の反省として読解に慣れるための工夫がもう少し必要だったかもしれない。